

114  
A4331



監軍本部條例

第一條

監軍本部ハ東京ニ於テ之ヲ置キ平時ニ在  
リ日常本邦全陸軍ノ檢閲并軍令出納ノ事ヲ  
綜攝ス

第二條 監軍部長ハ勅ニ依テ之ヲ任シ直ニ大藏省ノ下ニ

隸シ各之ニ屬スル二軍管内ノ檢閲軍令ヲ掌ス

第三條 其第一第二軍管内ノ檢閲軍令ヲ掌ル者

シ東部監軍部長トシ第三第四軍管内ノ檢

閲軍令ヲ掌ル者ヲ中部監軍部長トシ第五

第六軍管内ノ檢閲軍令ヲ掌ル者ヲ西部監軍

部長トス

但北海道ノ監軍ハ當分東部監軍部長

ヲシテ兼帶セシム

大正十一年四月  
大隈侯爵郵寄



第四條 此三部ノ監軍部長ハ皆師團司令長官  
即チ中將ニシテ有事ノ日ニ在テハ旅團司令長官  
即チ鎮守使司令長官ノ統轄スル常備現役ノ二旅  
團并其管轄ニ軍管内ノ第一後備軍ヲ統  
率シテ方面ノ敵衝ニ當ルヲ任トス但勅ニ依テ至高  
司令長官ヲ置時ハ之ニ隸屬スヘシ

第五條 三部ノ監軍部長ハ平時其軍令ノ出納并  
現役及ヒ第一後備ノ檢閲ヲ擔任スルカ上ニ上條  
ノ旨趣ニ本ツキ又現役第一後備ノ人負シ点  
檢シテ出師人負簿ヲ作り時ヲ逐ヒ点寬補足シ  
テ不虞ノ変ニ應シ遲滯ナカラシムルヲ任トス

第六條 凡軍令ノ出納ニ關スル事進軍駐軍轉  
軍行軍ノ令軍隊差差ノ令并平時例外調

係ノ事皆該部ヲ經由シテ令下取決ス但兵界ノ  
機密ニ卷画スルハ參謀本部長ノ專任ニシ平時  
陸軍一切ノ點檢經理會計等ノ項ヲ主管シ戰  
時供給ノ事ニ任スルハ陸軍部ノ官長ニシテ互區  
域ヲ嚴ニシ相混スルコトナカラシム

第七條 凡檢閲ノ事ハ定期ニ立テス勅ニ依テ隨行ニ  
巡行シテ之ヲ行フ然レモ秋季ニ於テハ殊ニ定  
則ノ閱兵ヲナシ軍隊規律ヲ奉スル程度ヲ監  
シ將校下士ノ能否勤怠ヲ察シ以テ次年進級進  
陞ノ用ニ供ス此檢閲ハ三部彼此互換シテ巡檢ス  
ルノミナラス又近衛學校諸官辭ハ三部ニ分割  
シテ巡檢スヘシ而シテ近衛諸隊ノ檢閲ニ在テハ車  
駕親臨ノ前ニ於テスルヲ法トス



一但秋赤子ノ檢閲ニ別ニ砲工歩騎ノ將校并會  
計軍匠馬廐諸官ヲシテ隨行セシム

第八條 檢閲ノ方法ハ赤子比年施行スル例ニ準ス  
ト多ク漸次ノ進歩ヲ徵スル為ナレシテ亦不定ノ  
例格ナレ但預メ陸軍卿及ヒ兵謀本部長ト  
合議シ規格ヲ制シ親裁シ經テ前以テ布告  
シ斯ニ從事セシム

第九條 管内鎮臺司令長官ニテ年毎ニ一次其  
管内所轄ノ將校ノ品行并材幹ノ優劣ニ就テ  
表明申報セシメ以テ宿風補ノ参考ニ供ス

第十條 其他軍紀ニ關スル隊内懲罰并各鎮臺  
下軍法會議ノ判決ハ鎮臺ヨリ四赤子毎ニ之ヲ  
申報セシメ以テ參考ニ供ス

第十一條 凡三部ノ監軍部長ハ軍令ヲ出納スル外  
其管下二軍管并其方面ノ地理ヲ詳カニシ兵  
謀本部長ト謀議シ方面警動ノ日ニ當リ是邊策  
ナカラシムヘシ

第十二條 各軍管内若クハ其方面ニ於テ警動ノ  
事又アレハ鎮臺若クハ其管下ヨリ報告皆陸軍  
卿ト本部管監軍部長トヘ兩告ノ例ニ從フ然レモ  
監軍部長巡行中ナラスレテ東京ニ在ル時ニ莫  
ク便宜ノ為ニ連名ノ牒告ヲ以テ之ヲ陸軍省ニ送  
致スヘシ

第十三條 凡三部ノ監軍部長ハ各自ニ其幕僚兵  
謀部ヲ置ク平時ニ在テハ兵謀大佐一人同大中  
尉一人傳令使佐尉官一人并下士若干ヲ置ク



第十四条

其戦時ニ当テハ要スル所ノ兵謀官及會  
計軍匠馬匠共ニ預メ兵謀本部ニ於テ製ス  
ル所ノ出師名簿ニ依リ補足スベシ

第十五条

凡本部内ノ用度ヲ辨スル為メニ本部内ニ於  
テ三部相通シテ會計官ヲ四置キ軍吏ニ名  
書記ニ名派出シテ以テ會計ノ事ヲ司トル

第十六条

此例内第三条ニ掲クル北海若ノ兵備  
ニ至テハ未タ全ク各軍ノ兵備ト同一ノ緒ニ就カサル  
ヲ以テ時宜ク権カリ多ク出入ノ例規ニ遵シテ